

熊本は、例えるなら男性も男性イメージを持っていたのか女性か。また阿蘇山ならばどうか。この簡単そうでも難しい質問を十五人くらいの人にしてみた。

なぜこうした質問をしたかというと、先日「地域学」という講義を聞いたからだ。大学においても生まれ

う。

たばかりの講座だから、まだ一般的ではない。講師の京都大学教授によれば、地域にはそれぞれ独自の歴史、文化、地勢、伝統、祭り、伝説、言い伝えの類があり、街づくりは、そうした地域の個性抜きには語れないし、この視点を持たずに街をつくるなど、違和感が生じ、ぎくしゃくした街ができるとのことだった。

亀井 創太郎



熊本県

## 熊本は男性か女性か

賞、または、女性の方が男性より元気がいいし、活躍しているとの意識があるようだ。要するに、男性はあれこそがえらい、女性も私こそが頑張っていると思っているに違いない。

前述した教授の調査によれば、東京と大阪は圧倒的に男性、京都と奈良は女性、神戸が

詞があるのだから、案外的を射ているのその中間との結果が出たそう。東京、大阪はビジネス都市、京都、奈良は観光都市という特徴がある。と

さて、独自調査の結果はどうだったかというと、答えはまさにばらばら。そしてその理由もまたばらばら。統計的处理をしていないのだから当たり前の結果ともいえるのだが、答えてくれる人の感性や体験などがいかさま見え、結構楽しい調査だった。

まず、京大教授は、熊本は女性、阿蘇山もまた女性との返事。その理由は、熊本は水と緑のイメージ、阿蘇山はヒステリックだから、と女性が聞けばめくじらさたような答えだった。私は、なぜか

(亀井通産社員)